

丹水道第 729 号
令和 6 年 11 月 20 日

丹波市上下水道事業運営審議会
会 長 坂 谷 高 義 様

丹波市長 林 時彦

たんば水ビジョン 2055（丹波市水道事業ビジョン）の策定について
（諮問）

丹波市上下水道事業運営審議会の設置に関する条例（令和 6 年丹波市条例第 14 号）第 2 条第 1 号の規定により、たんば水ビジョン 2055（丹波市水道事業ビジョン）の策定について、貴審議会に意見を求めます。

経 緯

水道事業者は、「水道事業ビジョンの作成について」（平成 26 年 3 月 19 日付け健水発 0319 第 4 号厚生労働省健康局水道課長通知）により、安全で強靱な水道の持続に資することを目的に、水道事業ビジョンの作成・改訂が奨励されている。

丹波市水道事業では、平成 18 年 3 月に「丹波市水道ビジョン」を策定しており、変更認可や料金改定を含む「丹波市水道施設統廃合整備計画」を主軸に、施設を統廃合（廃止・新設・機能増設）することで、市内全域の水融通、ランニングコストの削減、施設整備レベルの平準化（向上）、安全で安心な水の安定供給、事業会計事務の最適化、料金格差の是正等を目指すものであった。

本ビジョンは平成 27 年度を計画目標年度として策定しており、目標年度を経過した現在、施設の統廃合整備が一部未完了であり、また、現在の丹波市水道事業は、「丹波市中央上水道事業」、「丹波市山南上水道事業」、「丹波市市島上水道事業」の 3 事業として運営を行っており、市内全域の水融通が実現していない。

人口減少による給水収益の減少、管路・施設の老朽化に伴う経費の増大、頻発する自然災害など水道事業を取り巻く環境が大きく変化している中、特に、丹波市水道事業においては、水道管の延長が長く、数多くの施設を抱えているため、これらの影響を大きく受けており、事業継続の危機に瀕している。

これらの背景を踏まえ、丹波市水道事業を継続させるため、目標年を策定から 30 年後とし、50 年から 100 年後までの将来を見据えた理想像を示し、そこに向かう羅針盤の役割を持つ計画として、丹波市水道ビジョンに続く新水道事業ビジョン「たんば水ビジョン 2055」を策定する。

ついては、丹波市水道事業のあり方について議論いただき、「たんば水ビジョン 2055」の策定にあたり、貴審議会に意見を求める。